

東日本大震災で被災した 子どもたち・学校を支援

私たちは、震災が発生した2011年3月に緊急集会を開き、「日本学校心理士会 東日本大震災子ども・学校支援チーム」を立ち上げました。

- ①NASP(アメリカ学校心理士会)と連携して、自然災害にあった子どもを援助するための、「教師や保護者」向けの資料の作成と配布を行っています。資料は、ホームページからダウンロードできます。
- ②被災地では現地リーダーの学校心理士が中心となり、子どもと学校の支援を行っています。また、被災地の学校に学校心理士を派遣しています。
- ③避難児童生徒を迎える学校を支援しています。
- ④震災後の子ども・学校の援助について、研修会を行っています。



2011年4月11日 石巻



学習支援



被災した小学校を応援する子どもたち



日本学校心理士会
会長 石隈 利紀

「学校心理士」資格をもつ者は、生徒指導・教育相談担当、特別支援教育担当、コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラーなどとして、子どもの「学校生活の質」の維持・向上をめざしています。

「学校生活で苦戦する子どもの援助」や「すべての子どものための学級・学校づくりの促進」において、ぜひ学校心理士を活用してください。

学校心理士はチーム援助を大切にします。

学校心理士になるには

資格要件

- 大学院で学校心理学関係の科目を修得し、修士課程・専門職学位課程を修了し、学校心理学に関する専門的実務経験を1年以上有する方
- 学部卒業で学校心理学に関する専門的実務経験を5年以上有する方
- 大学院で学校心理学関係の科目を修得したが、学校心理士に求められる専門的実務経験が1年未満の方は「学校心理補」として申請できます。

まず、当該年度の「手引き及び申請書」と「学校心理士ガイドブック(最新版)」をお買い求めください。

資格申請期間は毎年4～6月、筆記試験実施は8月です。

審査は、(1)提出された書類、(2)筆記試験、(3)ケースレポートまたは研究業績について行われ、(1)～(3)を総合して合格・不合格が判定されます。

詳しくはホームページをご覧ください

<http://gakkoushinrishi.jp>



一般社団法人 学校心理士認定運営機構
日本学校心理士会

〒113-0033 文京区本郷 2-32-1 BLISS 本郷ビル 3F
TEL 03 (3818) 1554 FAX 03 (3818) 1588
E-mail:office@gakkoushinrishi.jp

支部一覧 2011年4月現在	茨城支部 埼玉支部 北海道支部 東北支部 北東北支部 山形支部 宮城支部 福島支部	中部支部 岐阜支部 静岡支部 愛知支部 三重支部 滋賀支部 京都支部	大阪支部 奈良支部 和歌山支部 兵庫支部 岡山支部 広島支部 徳島支部	香川・高知支部 愛媛支部 福岡支部 佐賀支部 長崎支部 熊本支部 大分支部
-------------------	--	--	---	---

学校における子どもの発達を支援する

学校 心理士

がっこう
しんりし



一般社団法人 学校心理士認定運営機構
Japanese Organization of School Psychologists (JOSP)

日本学校心理士会
Japanese Association of School Psychologists (JASP)

学校心理士は、学校における「心理教育的援助サービス」の専門家

学校心理士の役割

心理教育的 アセスメント

子どもの問題状況にかかわる情報を収集、教育的支援や教育計画の立案・修正などの資料を作成する

子どもへの カウンセリング

個別、または集団への働きかけを通して問題解決、危機の回避や対処を援助する

教師・保護者への コンサルテーション

子どもの問題を解決するため、子供を取り巻く人たちに働きかける

学校組織への コンサルテーション

学校全体として対処していく方法を模索するため、組織へ働きかける

学校教育の場で子どもを取り巻くさまざまな心理的・教育的な問題が浮上、専門的な援助が必要とのニーズから、1997年度から「学校心理士」という資格認定が行われるようになりました。これまでに誕生した学校心理士は4,000人を超え、心理教育的援助サービスの専門家として、その多くは学校教育現場で活動しています。また、教育委員会や教育センター、教育相談所などで活躍している方、教育委員会の依頼を受けて相談業務に従事している方もいます。



一般社団法人学校心理士認定運営機構
理事長 塩見 邦雄

学校心理士認定運営機構は、2011年4月1日から一般社団法人として、新しくそして力強く踏み出しました。学校心理士の最も基本的な役割は、子ども一人ひとりへの「心」をこめた「関わり」です。学校心理士は、子どもたちが持つ多様な個性の尊重と伸展にこそが、「共生」を推進します。個を生かし、個を尊重し、そして個とともに成長していく社会がこれまでも増して大切となります。学校心理士は、その社会の構築のために一杯努力し、学校・子どもたちが生き生きと伸展していくように支援します。

学校心理士を支える さまざまな活動

スキルアップや研鑽、会員同士の情報交換ができるよう、情報提供・研修・発表の場を設けています。

会員紙・年報の発行

全国大会や各支部で開催される研修会や特長のある活動について紹介した会員紙(年2回)、さまざまな活動や研究成果をまとめた年報をお届けします。



全国大会の開催

年1回、学校心理士として取り組むべきテーマを掲げ、協調や研鑽を深める場として、全国大会を開催します。講演・ポスター発表・研修会など、学校心理士の活動を支援する具体的な実践的な内容を提供しています。

各支部研修会の開催

全国に設けられた各支部でも独自に研修会を開催しています。各支部内の交流をはかることはもちろん、話題になっているテーマを取り上げ、外部からも講師を招くなど、工夫をこらしています。



海外研修

スクールカウンセリングの先進地であるアメリカや英国をはじめ香港や台湾に向き、サイコロジストの活動や学校教育の場を視察、現地スタッフとの交流も行い、知見を広げる機会を提供しています。

学校心理士が活躍するステージ

地域連携によるキャンパスエイド活動と 学校適応を目指した「心理学」授業について

県立高等学校 教師 鴨志田 和子 **教員として**

私が勤務する定時制課程単位制高校には不登校経験者が多数入学してきます。22年度在学生の中学校時不登校率は1年次40%、2年次57%、3年次35%でした。しかし、入学後は1年次4%、2年次19%、3年次12%と大幅に改善。なんとか学校適応を…と私たちが取り組んできたのは次の3つです。



一つ目は大学生のキャンパスエイドによる援助活動です。彼らは交代で常駐し、進路や学習の悩みについて相談につくられます。生徒にとっても気軽に話ができる姉や兄のような存在で、元気をもらって教室へ戻っていきます。

二つ目は1年次の「心理学」授業です。年間授業計画に沿った「心理学ノート」(石隈利紀・鴨志田和子作成)を使い、人間関係のスキルアップや自己理解・他者理解を深めています。

三つ目は、学校行事を通して対人関係スキルを学び、コミュニケーション力を育成していることです。習熟度別学習やTTを取り入れたことで生徒の学習意欲が高まり自己肯定感も育きました。部活動の加入も増えています。仲間づくりや体力づくり、ストレス解消等の場として部活動を楽しんでいます。

こうした新しい学校づくりに向けてカウンセリングコーディネーターを務めてこられたこと大変感謝しています。

子どもに直接カウンセリングするだけでなく、 子どもを取り巻く人たちにも働きかけます

スクールカウンセラー 半田 一郎 **カウンセラーとして**

私は、平成7年度からスクールカウンセラーとして仕事をしています。

スクールカウンセラーというと、相談室で子どもにカウンセリングをしているシーンを思い浮かべる方が多いと思いますが、必ずしもそうではありません。むしろ、その子どもの周囲にいる先生方と一緒に、具体的な指導方法や援助策について話し合いをすることが多いのが現状です。



子どもと直接的な関わりを持つ(カウンセリングを行う)だけでなく、子どもを支えている大人と話し合いを持つことも大切だと考えています。なぜなら、学校では、一人の子どものまわりに、教職員やクラスメイトなど多くの人たちがかわりを持っていてからです。

新たに子どもを支える大人の一になるのではなく、すでに子どもにかかわりを持っている多くの人たちと、より上手につながっていくことを目指しています。

こうした日々の活動から、教師や保護者へのコンサルテーションを役割のひとつと掲げている学校心理学の発想と知見は、スクールカウンセラーにとって非常に重要だと感じています。